

森林塾青水

第21回 定期総会

1. 日時 2022年4月9日(土曜日)
13時15分 ~ 14時30分
2. 場所 八丁堀区民館(東京都中央区)
3. 議題
第1号議案 2021年度事業報告及び会計収支
第2号議案 2022年度事業計画及び会計収支予算案
第3号議案 2022年度役員選任



2022年4月9日
森林塾青水

第1号議案 2021年度事業報告 および 会計収支

1. 2021年度事業報告

2021年度の総括

前年に引き続き新型コロナの影響で野焼きをはじめ各種イベントが中止となるなど集団活動は大きな制約を受けたが、ベースとなる環境保全活動は確保、今後の持続可能な活動にむけての布石を打てた1年であった。

- ① 茅場以外の活動での拡がりがあった:ミズナラ林を「ゆるぶの森」として、リトリート活動に供するなど、茅場以外の活動が広がった。
- ② 横の繋がりが増えた:自伐林業グループなど現地での拡がりに加え、茅を通じて和歌山県や千葉県などの「同志」とのつながりが出来た。
- ③ 参加者が多様化した:一般参加プログラムでは、首都圏からの参加が困難だった半面、車でこられる群馬県内からの参加者や比較的若手の参加が目立ち、今後の現地化、持続的な活動に期待をもたせられた。

一方、新型コロナから派生して深刻な問題が発生した。即ち、従来茅の一手引き取り手として一緒に歩んできた町田工業の文化財修復関係の仕事が激減、茅の引き取りを保留せざるを得なくなった。ほかの供給先を開拓すること、遠隔地への輸送の効率化、茅の品質向上が今後の課題となった。

○ 年初総会での「2021年度の重点取り組み」の進捗状況

- ① **茅刈衆の確保と人材育成を行い、安定的に茅を供給できる仕組みを構築する。**
→ 茅刈衆確保は進捗せず、ますます喫緊の問題になってきた。若手などより広い層の参加を促すための単価引き上げ、そのための品質向上をめざす方向に軸足を置きつつある。
- ② **ユネスコエコパーク、ふるさと文化財の森指定、ユネスコ無形文化遺産、SDGs未来都市の理念に沿って、都市住民、地元住民、行政との協力態勢を再構築する。**
→ 赤谷プロジェクトと歩調を合わせての調査活動、害獣対策などを試行したが、大きな成果はなかった。ゆるぶの森なども含めて新しい切り口でのアピールが必要。
- ③ **茅場の希少種の保全を継続するとともに増殖を試験的に行う。**
→ 計画通り実施中。今後の成果に期待。

各月の活動記録

～ 前年度に引き続き新型コロナの影響で、活動内容が大幅に制約される。

2021年

- 4月
- ・ 第20回定期総会実施。セミナーは、安藤邦廣筑波大学名誉教授の講演「茅葺文化の継承のために」
 - ・ 茅場保全技術の向上のための幅広い連携を目指すため、一般社団法人日本茅葺文化協会に加盟。
 - ・ 2011年の東日本大震災仮設住宅に茅を提供したが、これにかかわった福島県土木部建築総室が、日本建築学会の新設した「復旧復興特別賞」を受賞。(趣旨は「東日本大震災および原子力災害における福島県の応急仮設住宅供給と復興公営住宅建設の取り組み」)
- 5月
- ・ 1日-2日 第1回一般参加プログラム「野焼き・山の口開け」を予定していたが、新型コロナ感染症対策のため、昨年に続き中止。
 - ・ 同様に、例年協力している麗澤中学校「樹木観察会」も昨年に引き続き実施できず。また、日光茅ポッチの会訪問も計画されたが、参加を辞退。
 - ・ ゆるぶの森案内看板を設置。
- 6月
- ・ 茅場の除伐を自伐林業グループに外部委託。のべ7ヘクタールにわたり雑木を除伐整備し茅場も拡張。
 - ・ 在宅講座2021-1「リトリートについて」発行。感染症対策で集団活動ができない間、補完
 - ・ 在宅講座2021-2「奥利根ルポ」発行
- 7月
- ・ 全国草原ネットワーク総会にリモート参加。
 - ・ 防火帯刈払いを実施当初、一般公募で15名の申し込みがあったが、コロナ緊急事態宣言等で辞退いただき、代わりに選手8名(うち現地2名)で対応。
 - ・ 獣害対策として試験運用していた鹿罟3基のうち2つで初捕獲確認
 - ・ 赤谷プロジェクトの地域協議会が藤原で開催され、大学教員含め15名が上ノ原来訪、交流。
 - ・ 茅風63号発行。7ページ。
- 8月
- ・ 在宅講座2021-3「自伐型林業について」発行
 - ・ 在宅講座2021-4「循環型プラットホームLOOPについて」発行
- 9月
- ・ 在宅講座2021-5「パーマカルチャーとは」発行
 - ・ 南伊豆で開催された全国草原サミット、シンポジウムにリモート参加。
 - ・ 草原サミットでつながりのできた、和歌山大学生の「生石高原むすびや弥右衛門茅葺プロジェクト」と情報交換。機会あれば相互訪問することにする。

- ・北山塾長が試験的に栽培していた原木舞茸が順調に収穫できた。当面、青水の活動とは切り離すが、将来的には青水ブランドとしてコラボも視野。
 - 10月・年度第1回目の公募プログラム「上ノ原リトリート体験～ミズナラ林の間伐とキノコの駒打ち」を実施。参加者15名。林業の一端に触れ、リトリートを体験した。(時間切れでキノコ駒打ちは割愛。)
 - ・一般参加プログラム「茅刈」を実施。34名参加、うち宿泊24 みなかみ町民2名、群馬県民7名。質、量とも例年以上で、ボランティアの頑張りが目立つ。リピーターに加え元県農政部長、県知事戦略室メンバー、日大演習林実習所長など、ユニークなキャリアの方々も参加して参加者層が広がった。
 - ・茅刈り時、恒例の車座講座実施。西村幹事より「奄美琉球の世界遺産登録、保全地域登録の意味について」
 - ・茅の引取先(買取先)である町田工業から、コロナ禍で文化財修復作業が停滞、茅の引取りが困難なむね通告を受け、新たな引取り手探しを開始。
 - ・茅葺き文化協会の紹介で新たに、千葉県鴨川市の一般社団法人「ちいさな地球」が茅の引き取り先として浮上、打ち合わせ。
 - 11月・茅風64号発行。8ページ。
 - ・茅刈りでたてた茅ポッチが例年にない強風で多数倒壊、茅刈り衆や自伐林業グループ、別件で来ていた首都圏からのボランティアの協力で立て直しをした。
 - ・風の谷PJTの人たちと、2日にわたり古民家を整理。(風の谷PJT: 慶應義塾大学 環境情報学部教授提唱、群馬県でもこれに呼応、戦略企画課未来創生室未来創生・風の谷実現係を設けるなどの取り組みをしている。)
 - ・ミズナラ林が2件、撮影のロケ地として使われる。一つはシベリア抑留をテーマとする映画(原作: 辺見じゅん「収容所から来た遺書」文春文庫)。ひとつはTBS。(積雪時)
 - ・一般参加プログラム「茅出し・山の口終い」実施、20名が参加、4000束を山から下ろす。新しい引き取り手、「小さな地球」のメンバーとともに一部(975束)を積み込み、残りの引き取り先未定分は現場に仮置き。
 - ・茅出し時、恒例の車座講座実施。東京渋谷にあるビルの屋上で養蜂、はちみつを生産している河辺さんから「みつばちの話」。
 - ・積み出しまちの茅ポッチが雪をかぶる被害を受ける。町役場の協力で矢倉倉庫、ダム事務所あとの倉庫を借り、自伐林業グループの働きで、天日干し、搬出、格納する。
 - 12月・ゆるぶの森で行ったリトリート活動が「ぐんま森林ビジネスコンテスト」で入賞、表彰式およびプレゼンに3名出席。ゆるぶの森ガイドブック、お散歩手帳、ゆるぶの森看板設置など、今までの活動が役に立った。
 - ・会員有志6名で他団体交流ツアー実施。12月5日に和歌山県生石(おいし)高原「むすびや弥右衛門茅葺プロジェクト」の茅刈りにイベントに参加。古民家で交流会実施。
- 2022年
- 1月・流域連携プログラムとして茨城県小貝川、菅生沼での野焼きにのべ10名が参加。
 - 2月・茅風65号発行。9ページ。
 - ・茅の引き取り手探しとして、栃木県益子の濱田窯と筑波大院生の「濱田窯の長屋門葺き替えプロジェクト」へ茅葺文化協会経由で打診開始。
 - 3月・一般参加プログラム「雪原トレッキングと自然体験」実施。県内からの8名を含め23名参加。トレッキング、冬芽観察、メイプルシロップ作りをした。
 - ・楽習会実施。講師は「百年杉」の普及活動をしている加藤木材加藤氏。講師含め27名参加。

このほかホームページ、ブログを随時更新、またフェースブック等SNSでも随時発信。

(参考データ)

一般参加歓迎プログラム参加人数(会員以外の地元協力者は含まず)

	①野焼き・山之口開き	②新緑イベント(遊歩道整備など)	連携活動(日光訪問など)	③盛夏(防火帯整備など)	④初秋(林整備、リトリートなど)	周辺地域・地元行事参加	⑤茅刈	⑥茅ポッチ搬出	⑦冬(冬芽観察・雪原散策など)	合計
参加者	中止	中止	中止	8(特命)	15	中止	34	20	23	100
前年	中止	中止	中止	18	17	中止	34	18	9	96
前々年	48	12	中止	12	14	中止	26	13	中止	125

茅刈実績(単位:束)

実施年度	2021	2020	2019	2018	2017	2016	2015	2014	
刈り取った茅	4070	3435	3775	3430	2300	4490	5550	3555	30605
うちボランティア	1070	975	775	860	480	625	490	400	5675
(うち合宿)	(525)	(550)	(375)	(420)	(50)				(1920)
うち地元	3000	2460	3000	2570	1820	3865	5060	3135	24910
*環境保全作業協力金支払	90,000	105,000	92,520	99,500	40,000	126,500	100,960	137,500	

* 茅の買い取り価格(町田工業)に当塾が上乘せするもの。

第2号議案 2022年度事業計画案

1. 2022年度事業計画(案)

- ・都市、地元、利根川流域の住民が**飲水思源の志**でつながり、楽しみながら汗を流す。
- ・**人と自然のほどよい関係で**、生き物たちでにぎわう上ノ原の「入会の森(茅場・ミズナラ林)」を持続的に保全・利用していく。

■基本方針

上ノ原「入会の森」の茅草原、ミズナラ林を保全しながら、自然の恵みを持続的に利用する仕組み構築し、地域のタカラとして次世代につなげる。

●2022年度の重点取り組み

茅場保全と茅の利用(野焼き→茅の育成→茅刈技術向上→品質管理→販路確保)の安定的な循環の仕組みを目指す。

・リトリートなど「ゆるぶの森」の新しい活動を定着化させ、ユネスコエコパーク、ふるさと文化財の森、ユネスコ無形文化遺産、SDGs未来都市の理念に沿った上ノ原の活用を、都市住民、地元住民、行政に幅広くアピールしていく。

・茅場の希少種の保全と増殖を継続的に行い上ノ原の総合的な価値を高める。

	ベースの活動	今年度の新規または重点項目
茅場	野焼き 茅刈り・運びだし 茅買上げによる茅活用のしくみ定着化	行政はじめ広い層からの協力・支援の獲得 現場でのスグリによる品質向上・輸送の効率化 茅スグリによる品質向上、新しい販路(連携先)開拓 記帳台の設置による、山菜取りなどの茅場の利用状況の調査
ミズナラ林	二次林の若返り伐採と資源の活用 自伐型林業との協働と利用促進 ゆるぶの森整備	抜き切りの推進、薪、木炭、木製品 リトリートプログラム活用 センサーカメラによる生き物調査(赤谷プロジェクトとの連携) ニホンジカの調査捕獲(前年から継続) リトリートプログラムの推進 広報活動を通じて利用働きかけ
次世代への橋渡し	藤原小中学校との協働 環境教育のお手伝い	希少植物の栽培を通じた環境教育 麗澤中学校の環境教育受託
活動基盤	環境資源の発掘、掌握、アピール 担い手の拡充 流域中心に諸団体との連携	重要里地里山500、モニタリングサイト1000、昆虫等保護条例指定地、SDGsを意識した活動 茅刈新規参入者の促進、地域おこし協力隊、自伐型林業の研修参加者への働きかけ(前年度から継続) 大学など教育機関との連携、働きかけ 茅葺き文化協会のチャンネル活用

2. 2022年度年間行事予定(案)

実施日	実施事項 ①～⑧は定例活動 (カッコ内＝現地行事)	実施内容
4月9日	総会・セミナー（於、東京都中央区）	
4月29～30日	①野焼き 山の口開け(予備日:5月1日)	事前の防火帯整備、野焼、山の口開け儀式 有志で、茅スグリ指導員育成講座、記帳台設置
未定	麗澤中学校樹木観察会(於、千葉県柏市)	校庭の樹木を題材に奥利根水源の森林FWにむけた自然観察の意識づけ
6月18～19日	②森林整備とリトリート	希少種等の生育状況の調査、生態調査 茅スグリ
7月16～17日	③防火帯刈り払い、草原・歩道整備 自然環境モニタリング調査	防火帯刈り払い、歩道整備、 生物モニタリング、茅スグリ
8月1日	(武尊神社例大祭)	
8月19日(予定)	(藤原区民祭り)	
8月20日(予定)	(藤原湖マラソン前夜祭、花火大会)	
8月21日(予定)	(藤原湖マラソン)	
9月3日～4日	④里山でリトリート(ゆるぶの森&諏訪神社)	秋の自然観察 茅スグリ
9月4日(予定)	(諏訪神社例大祭)	
	日光茅ポッチの会訪問	茅刈り支援
10月1日～2日	⑤ミスナラ林整備	伐採、搬出、薪割り、キノコの駒打ち 茅スグリ
10月29日～30日	⑥茅刈	茅刈・茅刈検定 茅スグリ
10月31～11月6日	茅刈りウィーク	
	麗澤中学フィールドワーク	茅刈、森林散策、草木染、茅スグリのプログラム化
	地元による茅刈	新規参入働きかけ、地元勢による茅刈、環境保全作業協力金支払い
11月19日～20日	⑦茅出し・山の口終い	茅スグリ、茅搬出、山の口終い行事、キノコの駒打ち、炭焼き
1月(未定)	流域活動:小貝川、菅生沼の野焼(於、茨城県常総市)	小貝川、菅生沼での野焼き参加
3月11日～12日	⑧キャンドルナイト&雪原トレッキング	かまくら設営、ポタ作り、雪原散策・冬芽観察、茅スグリ、メープルシロップづくり
通年 or 未定 (メニューの中で実施)	茅、希少種の生育状況モニタリング	モニタリング・記録、生き物写真コンクール検討
	首都圏部会中心に楽習会を2-3回実施。	臨時楽習会などを通じて専門家などからのレクチャー
	藤原小中学校との協働	希少種の栽培
	茅の販路開拓	茅葺き文化協会の協力を得て需要先に働きかけ
	NPO奥利根水源地域ネット側面支援	自伐型林業、古民家整備・利用促進、藤原学再興など
	全国草原サミット・シンポジウム	
	自伐林業との相互交流	機会あれば、会員が自伐林業イベントに参加
	地域貢献活動	明川さくらの里の草刈など
	車座講座の実施	定例活動の交流会で実施して参加者へ付加価値付与
	連携団体への上ノ原来訪・利用呼びかけ	
摘要	1. 野焼きは、除雪をしないで行う。野焼き事前準備、防火帯整備。 2. 茅刈り新規参入者対策:自伐型林業の研修参加者にアナウンス。	

項目		2021年度 計画	2021年度 実績	うち助成金 充当	うち自己負 担	2022年度 計画	うち助成金 充当	うち自己負 担
収 入	前年度繰越金	2,219,138	2,219,138			2,317,365		
	会費・入会金	358,000	337,000			358,000		
	会費(正会員・家族会員)	292,000	267,000			282,000		
	賛助会員会費	60,000	70,000			70,000		
	新規会員入会金	6,000	0			6,000		
	事業収入	455,000	278,450			505,000		
	定例プログラム等参加費	385,000	181,300			385,000		
	茅・物品等売上	60,000	96,650			120,000		
	講演料・原稿料	10,000	500			0		
	受託事業収入	420,000	0			420,000		
麗澤樹木観察会受託	300,000	0			300,000			
麗澤FW受託	120,000	0			120,000			
助成金・寄付金	1,190,000	1,188,105			1,020,000			
みなかみ町昆虫等保護	30,000	30,000			30,000			
財団等民間	1,160,000	961,105			940,000			
寄付金	0	197,000			50,000			
その他収入	0	22			0			
受取利息	0	22			0			
その他	0	0			0			
(単年度収入)		2,423,000	1,803,577			2,303,000		
合計		4,423,462	4,022,715			4,620,365		
支 出	事業経費	1,610,000	1,190,586	961,105	229,481	1,441,000	943,515	497,485
	備品購入費	240,000	246,710	246,710	0	129,990	93,500	36,490
	動植物飼育栽培関連費	50,000	30,869	30,869	0	5,000	0	5,000
	消耗品費	25,000	36,777	36,777	0	20,000	14,215	5,785
	懇親会費用	200,000	77,211	0	77,211	200,000	0	200,000
	車両等賃借費	280,000	233,654	233,654	0	250,000	240,790	9,210
	旅費交通費	215,000	71,555	63,065	8,490	207,080	147,080	60,000
	宿泊費	85,000	6,000	0	6,000	63,000	52,000	11,000
	人件費・謝金	65,000	35,000	35,000	0	60,000	50,000	10,000
	人件費・環境保全作業協力金	90,000	90,000	90,000	0	85,000	85,000	0
	環境保全協力地域通貨費	30,000	23,800	0	23,800	50,000	0	50,000
	会費・交際費	70,000	113,980	0	113,980	110,000	0	110,000
	保険料	85,000	60,030	60,030	0	84,930	84,930	0
	調査研究費	0	0	0	0	8,000	8,000	0
	広告宣伝費	7,000	0	0	0	0	0	0
	資料・チラシ等郵送費	3,000	0	0	0	3,000	3,000	0
	業務委託費	165,000	165,000	165,000	0	165,000	165,000	0
	受託事業経費	379,000	0	0	0	379,000	0	379,000
	資材消耗品費他	25,000	0	0	0	25,000	0	25,000
	車両等賃借費	25,000	0	0	0	25,000	0	25,000
	旅費交通費	78,000	0	0	0	78,000	0	78,000
	人件費・謝金	231,000	0	0	0	231,000	0	231,000
	業務委託費	20,000	0	0	0	20,000	0	20,000
事務所経費その他	203,000	112,764	0	112,764	168,000	0	168,000	
設備備品費	50,000	0	0	0	20,000	0	25,000	
消耗品費他	15,000	1,870	0	1,870	10,000	0	5,000	
印刷費	30,000	26,399	0	26,399	30,000	0	30,000	
郵便料・通信費	30,000	27,174	0	27,174	30,000	0	30,000	
サーバー等ITインフラ費	26,000	25,740	0	25,740	26,000	0	26,000	
会議室等利用費	40,000	23,100	0	23,100	40,000	0	40,000	
振込・払込手数料	12,000	8,481	0	8,481	12,000	0	12,000	
その他		402,000		402,000				
(単年度支出)		2,192,000	1,705,350	961,105	744,245	1,988,000	943,515	665,485
次年度繰越(残高)		2,231,462	2,317,365			2,632,365		
合計		4,423,462	4,022,715			4,620,365		

※ 感染症対策で事業の大幅変更が予想される。受託事業は、相手先の対応未定のため、前年予算と同額計上。

※ 2022年3月末会員数(カッコ内前年): 正会員58(62) 家族会員7(7) 協賛会員6社(6)

入会: 竹濑浩子

退会: 石井清一郎 金井正樹 北原一浩 原剛 山本清次郎(物故)

第3号議案 2022年度役員選任

1. 役員候補 (あいうえお順)

稲 貴夫	岡田伊佐子	尾島キヨ子	北山郁人	草野 洋	夏目啓一郎
西村大志	藤岡和子	増井太樹	松澤英喜	柳沼翔子	吉野一幸

2. 役職変更(案)

変更なし

3. 新任役員

柳沼翔子

4. 2022年度執行体制(案)

塾長	北山郁人	全般統轄 みなかみ事務所長(地元・みなかみ町役場ならびに支援企業との連携、資材等管理)
事務局長	草野 洋	全般にわたる企画・管理 全般統轄補佐 下流域部会統轄
幹事	稲 貴夫	広報(「茅風」編集長)、東京楽習会、総会/セミナー
	岡田伊佐子	麗澤中補佐「樹木観察会/FW」・自然ふれあい学習、東京楽習会補佐、総会/セミナー補佐
	尾島キヨ子	麗澤中補佐「樹木観察会/FW」 下流域プログラム補佐 茅刈り合宿
	夏目啓一郎	地元の活動参画促進、NPO奥利根ネットワーク、地域貢献プログラムほか
	西村大志	WEB管理(H/P・プログメンテなど) 助成事業 広域連携補佐(草原再生ネット、草原サミット)、麗澤中(統轄、窓口)
	藤岡和子	児童青少年の教育プログラムの企画実行 プログラム企画開発 茅刈り合宿補佐
	増井太樹	広域連携(草原再生ネットワーク)
	松澤英喜	事務局長補佐(予算管理、会員管理、総会、幹事会ほか) 助成事業補佐 WEB管理補佐 会計・出納
	柳沼翔子	現地活動塾長補佐 プログラム企画開発補佐
	吉野一幸	地元代表
	稲貴夫(兼務)	会計監査

顧問

安楽勝彦	笹岡達男	清水英毅	滑志田隆
------	------	------	------

オブザーバー/相談役

高橋英俊	行政/みなかみ町役場窓口(環境政策室)
林 親男	地元関係相談役(藤原案内人クラブ)
川端英雄	アドバイザー

(注)みなかみ町役場からのオブザーバーは、人事異動などある場合は、その後任をお願いいたします。